

別紙

J F E スチール株式会社 西日本製鉄所 福山地区 温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

J F E スチール株式会社 西日本製鉄所 (福山地区)

(2) 事業所の所在地

広島県福山市鋼管町1番地

(3) 業種

2311 高炉による製鉄業

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成17(2005)年度を基準とする
平成25(2013)年度～平成32(2020)年度までとする。

3 計画の基本的な方向

1. 理念

当社は、地球環境の向上を経営の重要課題と位置付け、社会と調和した事業活動を推進することにより、豊かな社会作りを目指します。

2. 方針

当社は、瀬戸内海国立公園内に位置するという立地条件を考慮し、自然環境・地域との融和をめざした企業活動を推進します。

- ・製鉄所が環境に与える影響を的確に捉え、目的意識を持って環境目標を設定し、実行と見直しにより環境保全活動の継続的な改善を行い、環境負荷の低減を図ります。
- ・環境関連の法律、条例、協定及びその他の環境上の取り決め事項を遵守するとともに、省エネルギー、省資源・リサイクルを含む環境汚染の予防に努め、社会と調和した鉄づくりを推進します。
- ・全従業員に環境教育を実施し、環境意識の向上を図ります。
- ・地球環境への配慮を目指した環境改善活動を実施します。
- ・製鉄所周辺を含めた環境改善を推進し、地域に信頼される製鉄所を目指します。
- ・環境保全体制強化のため、ライン自律型環境管理を推進します。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成17年度	直近年度 平成24年度
二酸化炭素	燃料・電力の使用及び 他人への燃料・電力の供給	18,269,792	19,176,543 ^{※1}	20,535,300 ^{※2}
合 計		18,269,792	19,176,543 ^{※1}	20,535,300 ^{※2}

※1 平成17年度の原単位は平成2年度より△17%改善

※2 平成24年度の原単位は平成2年度より△24%改善

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
二酸化炭素				
合 計				

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	活動の区分	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
		平成2年度	基準年度 平成 年度	直近年度 平成 年度
メタン				
一酸化二窒素				
HFC PFC SF ₆				
合 計				

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成17年度)	削減目標		目標年度 (平成32年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂	19,176,543	2.6 ^{※3}	500,000 ^{※3}	18,676,543 ^{※3}
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方	日本鉄鋼連盟 低炭素社会実行計画の目標 【2020年度までに2005年度比で500(万t-CO ₂)削減 [BAU(成り行き)比]】 に基づいて設定。			

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

※3 BAU(成り行き)比

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量(kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)							
目標設定の考え方							

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料ガスの削減	平成17年度→平成32年度 50万t-CO2※ ※BAU(成り行き)比	加熱炉能力向上 排熱回収設備の改善
2	省電力の推進		ポンプ・ブロー省電力 (低揚程化、回転数制御) 省圧空活動
3	設備高効率化		設備更新時に設備高効率化
4	操業最適化		能率アップによる固定ロス削減

※原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

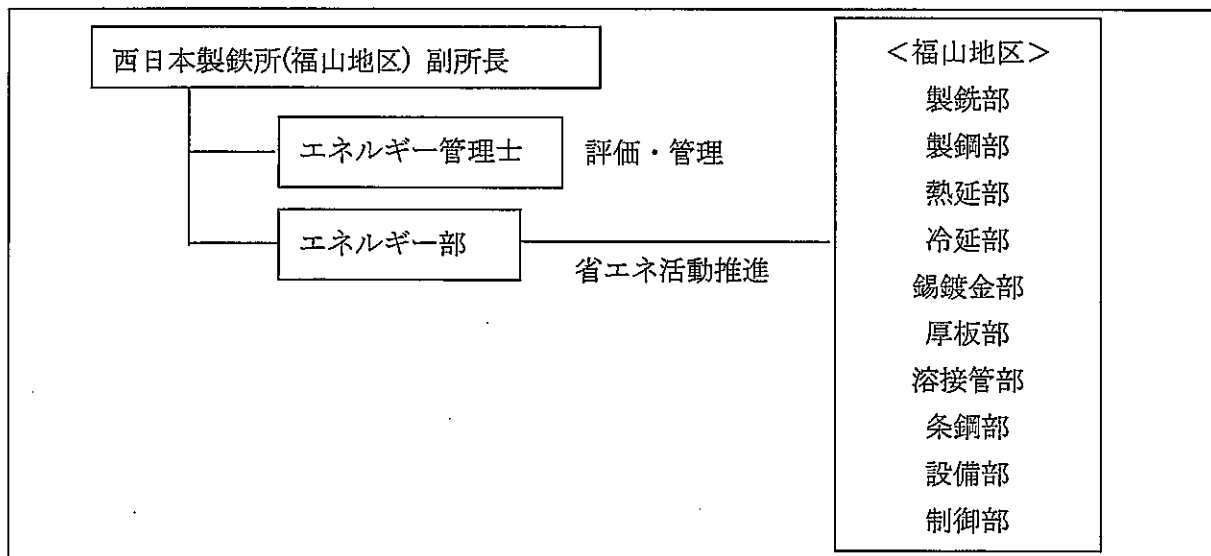
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	数値目標は設定せず	・両面コピー、裏面利用等 ・分別収集及び資源化の徹底
2	環境家計簿	数値目標は設定せず	・毎月家庭のCO2排出量実績フォロー
3	その他	数値目標は設定せず	・公道清掃奉仕活動の実施

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

毎年、温室効果ガス排出量を算出し、取り組み状況を把握する。
また、定期的に評価・見直しを行い、継続的な向上を図る。

(3) 計画書等の公表

事業所内に備え付けて閲覧する。